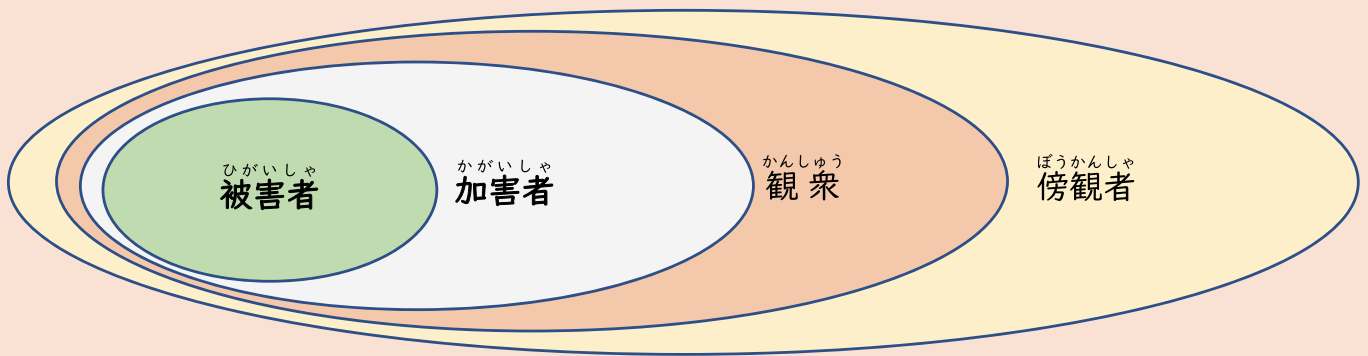


いじめ

いじめは深刻かつ、命にも関わる重大な人権問題です。現在も、いじめが原因となる自殺や傷害事件など、痛ましい事件が後を絶ちません。

【いじめの構造 (いじめの4層構造)】



- 被害者 (いじめられる子ども)
- 加害者 (いじめる子ども)
- 観衆 (はやしたてたり、おもしろがったりして見ている)
- 傍観者 (見て見ないふりをする)

いじめの持続や拡大には、「被害者」と「加害者」の子ども以外の「観衆」や「傍観者」の立場にいる子どもが大きく影響しています。「観衆」がいじめを積極的に認め、「傍観者」がいじめを暗に支持することで、いじめを促進する役割を担っています。

見て見ないふりをするのではなく、「いじめはいけない」というメッセージを発信することで、いじめを許さない雰囲気を作り、いじめをなくしていくことが必要です。

いじめ

いじめの背景には、ストレス等、様々な要因があるとされています。いじめには、冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、仲間はずれや無視、暴力を伴うもの、嫌なことをさせられたりする等、様々な形態があります。

また、近年は、インターネット上の掲示板やブログ、SNSを悪用した、「ネットいじめ」と呼ばれる巧妙かつ陰湿なケースが多くなっています。

インターネット上のいじめがおきているとき、自らがターゲットになることを恐れ、同調したり見て見ぬふりをしたりするようなこともいじめを許容する雰囲気を生み出します。



「いじめられる側にも問題がある」と言う人もいますが、いじめを正当化する理由などどこにも存在しません。「いじめられてもいい人」は、誰一人、いません。

ネットいじめの件数は増加しています

